

表 1：障害者に対する偏見・差別に関する文献

著者(年)	調査対象	調査方法	研究対象	調査項目	解析法	結果	対策
村井ら (2001) 9)	看護学生(1 年生) 有効回答 307人	アンケート ト配布	精神障害	接触経験の有無 イメージの自由記載 怖さの段階	クロス集 計(χ 二 乗)	精神科の講義を受ける前は半 数以上が精神障害者に恐怖感 を抱いていた。	ロールプレイ、見学実習の中 で精神障害者および精神疾 患への理解を深める指導
清水ら (2002) 10)	地域住民 50 人	アンケート ト配布	精神障害	形容詞の組合せ 16 対 からなる SD 法	t 検定	運動会に参加した住民では 「積極的」、夏祭に参加した住 民では「温和」というイメー ジが肯定的に変化した。	病院内外のイベントへの参 加の働きかけを継続して、地 域住民との相互関係を深め る
谷口ら (2002) 11)	病院近隣の 地域住民 300人	郵送法ア ンケート	精神障害	形容詞 18項目の質問 自由記載	単純集計	精神障害者を危険視している が病院の開放化には好意的で あった。 若年者は理解度が高いが高年 代になるほど否定的であっ た。	
森田ら (2003) 12)	医療系大学 生 97人を含 む大學生 112人	アンケー ト	精神障害	バーチャルハルシネー ション体験前後で偏見 の有無と 8 項目の質問 の回答を比較	χ 二乗	統合失調症に悩む人の立場や 辛さを感じる事ができたと 回答したのは全体で 92.8%で あった。	正しい知識はできるだけ早 期に計画的に広める。学校教 育の中に組み込まれること も検討する 地域との交流の機会を積極 的に増やし身近に感じられ る環境づくりを行う
田中ら (2003) 13)	(有効回答) 会社員 45 人、公務員 339人	アンケー ト	精神障害	講義の受講前後で回答 を比較 精神疾患および障害理 解尺度(MIDUS) 否定的態度尺度(全家 連)	Wilcoxon 検定 χ 二乗	1 時間半の講義により精神疾 患・障害に対する否定的な態 度と自身が医療を利用するこ との抵抗感が改善された。	参加者にとつてより身近な テーマを設けるなどして教 育講座への参加意欲を刺激 する作戦を立てることが基 本的に必要
田中ら (2004) 14)	保健所管内 の地域住民 2632人(有 効回答)	郵送およ び配布回 収式アン	精神障害	精神障害者偏見尺度 (MDPS) 事例提示に基づく回答	因子分析	高齢者ほど精神障害者を拒絶 する態度を示す。死別(離別)、 義務教育終了者、無職の者は、	地域住民は啓蒙プログラム の単なる受け手となるので はなく、自らがプログラムを

田中ら (2005) ⁶⁾	効回答 1211 人)	ケート		者の意見の選択	分散分析	精神障害者に対して偏見があった。 回答率は 60.6%、有効回答率は 46.0%。 大家が精神障害者に部屋を貸さないという判断を全体の 8 割の回答者が支持したが、通院などの条件を付加すると全体の 8 割の回答者が隣人として受け入れると回答した。 認知的な煩雑性が偏見的な判断を促進するという仮説を示できなかった。	精神障害者に対する偏見がある 地域社会を創っていくべきで ある 統合失調症を病気で来ている 療者が確立されてきている と考えている者は精神障害 者への拒絶感が低い、という 結果を、教育プログラムにお いて、統合失調症に関する意 識と知識の増進に活用する
川原ら (2005) ¹⁵⁾	看護学部 3 年生 103 人	アンケート への回答と 作業	精神障害	精神障害者であるという 情報の有無と負荷作 業の有無による 2×3 条件の割り付け	二元配置 分散分析	認知的な煩雑性が偏見的な判断を促進するという仮説を示できなかった。	
浅井 (2005) ¹⁶⁾	大学生 114 人	アンケート	精神障害 者を含む 48 の概 念	7 つの質問について該 当すると思うかそれぞ れを 9 段階で評定	因子分析 およびク ラスター 分析	回答者はうつ病以外の精神障害者を生物学的な意味や背景、遺伝子などの本質をもつものとしてとらえていた。	精神障害者が病であるという ことについて専門家による 教育が必要
森本(川 原)ら (2006) ¹⁷⁾	看護教員養成 課程受講者 (看護師) 115 人	アンケート への回答と 作業	精神障害	精神障害者であるという 情報の有無と負荷作 業の有無による 2×2 条件の割り付け モデル事例を用いた SD 法	二元配置 分散分析	認知的な負荷が高いほうが、 精神障害者に対して偏見に基 づいた印象を形成しやすかつ た。 個人的に形成される偏見的な 印象と、社会的に統制される 判断とは異なっていた。	自己の認知のあり方を意識 することで偏見に気づく
中島ら (2006) ¹⁸⁾¹⁹⁾	看護学生 106 人	アンケート 配布	精神障害	偏見項目 対人不安尺度	因子分析	社会的・文化的に生じた偏見 が強かった。偏見の強い者は 対人不安も強かった。	社会的スキルの欠如を解消 し対人場面での成功体験が できる教育的取り組み 知識と体験を統合し感性を 育む実習
加藤 (2006)	看護短大生 (4年生) 60	アンケート 配布	精神障害	精神看護実習前後で社 会的距離尺度の得点を	t 検定	実習による接触体験は精神障 害者への社会的変化を拒否的	

20)	原口ら (2006) 21)	人 作業療法士 養成校の学 生 有効回答 90 人	アンケート ト配布	精神障害	比較 社会的距離尺度 (SDS-R)	三元配置 分散分析	から好意的に変化させた。 長期の実習では社会的距離が 減少した。短期実習では社会 的距離が増加した。	実習早期から「協同」を伴う 作業活動を取り入れる
22)	中村 (2006)	社会復帰施 設職員 8 人	半構造化 面接	精神障害	地域交流活動について 意見を求める質問 6 項 目	分類	偏見・差別が地域住民側のバリ リア、社会復帰施設側のバリ リア、社会的なバリアに共通し ていた。	家族や友人たちへ学んだ知 識や正しい情報を提供する、 相談に乗る 地域の関連活動に取り組み ことで地域住民に関心を持 ってもらおう
23)	荻原ら (2006)	理学療法士 324 人(有効 回答 150 人)	郵送法ア ンケート	身体障害 者への態 度	身体障害者への態度尺 度 (ATPC) 20 項目	因子分 析、t 検 定、重回 帰分析ほ か	重度の患者を多く担当してい る療法士、女性の療法士の方 が得点は高く、身体障害者に 対して肯定的な態度を示し た。	
3)	加藤 (2007)	文献研究		精神障害			精神障害者に対して偏見を感 じるのは精神障害者、専門職、 精神保健福祉専門職、患者家 族、一般人の順であった。	
7)	谷岡ら (2007)	地域住民(20 歳～60 歳) 600 人(有効 回答 293 人)	郵送法ア ンケート	精神障害	接触経験の有無 イメージ(選択肢から 複数回答)	単純集計	精神障害者を初めて意識した ときには否定的なイメージが 多かった。	若い年代から病院や施設等 で精神障害者と日常的に交 流を持てるようふれあいの 場の場を関係機関と共同で企 画

表 2：条例の認知度

	官公庁		福祉的機関	学校	医療機関	当事者団体	その他	全体 (%) *
	市区町村担当課窓口	左記以外						
よく知っている	13 (22.0%)	27 (13.5%)	59 (14.6%)	32 (5.9%)	7 (16.3%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	140 (11.1%)
知っている	37 (62.7%)	123 (61.5%)	220 (54.6%)	229 (42.0%)	23 (53.5%)	8 (80.0%)	2 (40.0%)	642 (50.8%)
聞いたことはある	8 (13.6%)	38 (19.0%)	95 (23.6%)	203 (37.2%)	10 (23.3%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	355 (28.1%)
初めて名前を聞いた	1 (1.7%)	11 (5.5%)	29 (7.2%)	81 (14.9%)	3 (7.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	126 (10.0%)
その他	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	2 (0.2%)
合計 (%) **	59 (100%)	200 (100%)	403 (100%)	545 (100%)	43 (100%)	10 (100%)	5 (100%)	1,265

*回答機関数 1,265 のうちの割合

**各機関のうちの割合

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

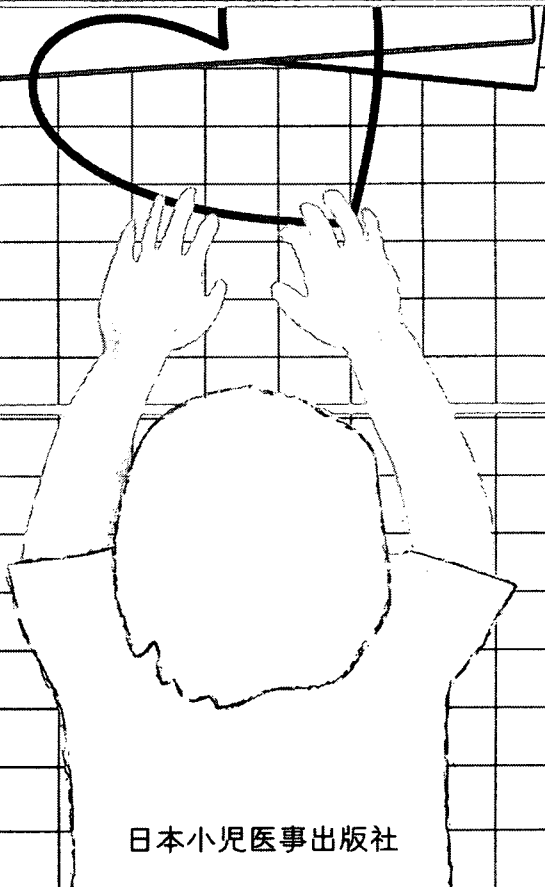
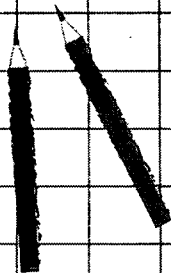
著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
<堀口寿広>							
秋山千枝子, 堀口寿広		秋山千枝子, 堀口寿広	スクールカウンセリングマニュアルー特別支援教育時代にー	日本小児医事出版社	東京	2007	
<高梨憲司>							
高梨憲司	視覚障害がある場合のコミュニケーション支援とは	秋山千枝子, 堀口寿広	スクールカウンセリングマニュアルー特別支援教育時代にー	日本小児医事出版社	東京	2007	152-153
高梨憲司	座談会「ブレメンの挑戦」	千葉新福祉研究会	ブレメンの挑戦ー新福祉論が目指すまちづくり	ぎょうせい	東京	2007	95-121

IV. 研究成果の刊行物・別刷

スクール カウンセリング マニュアル

特別支援教育時代に

監修 秋山千枝子 堀口寿広



日本小児医事出版社

ブレーメン

挑戦 — 新福祉論が目指す
まちづくり

ブレーメンの挑戦 新福祉論研究会



Project Bremen

きょうせい

平成 19 年度
厚生労働科学研究費補助金
障害保健福祉総合研究事業

地域相談ネットワークによる障害者の権利擁護の可能性

発行：平成 20 (2008) 年 3 月
発行所：国立精神・神経センター
(東京都小平市小川東町 4-1-1)

電話：042-341-2711 (代) ファクシミリ：042-346-1944 (代)

発行者：堀口寿広